

# 今月のキラリ

さまざまな団体の  
キラリとした活動を紹介

## 住まいの確保が困難な人を支えて 人と人のつながりをつくる施設

社会福祉法人 桑の実会「ルーカスクエア」(所沢市)

単身高齢者や障害者、外国人のなかには、貸し渉りにあって住まいの確保が難しい方が数多くいます。そんな人たちをサポートする「住支援事業」に取り組む社会福祉法人が、新たな「多機能地域共生施設」をオープンしました。

社会福祉法人桑の実会は、1976年に設立され、保育、介護、医療など幅広い福祉事業を展開している、規模の大きな社会福祉法人です。

これまでにも先駆的な取り組みを色々と実践してきましたが、昨年7月には所沢市内に、多機能地域共生施設「ルーカスクエア」がオープンしました。1階は地域交流スペースやコンビニ、薬局などの店舗が入り、2階は単身高齢者、障害者、ひとり親世帯などのための居室、3階は職員(外国人も含む)の寮となっています。

「ルーカスクエア」を開設したきっかけは、「80代の姉が貸し渉りにあり、アパートが見つからなくて困っている」という高齢者からの相談でした。濱野賢一理事長は「単身高齢者をはじめ住まいの確保が困難になる方が増大

がその人らしく、安心して暮らすことができ、さらに地域共生の拠点になるような施設をつくりう」ということが決まりました。

「自立したい」という障害者の思いにも応える施設

ルーカスクエアの開設から1年余り。32の居室は徐々に埋まり、4月には満室になりました。桑の実居住支援室長の米川智裕さん

(公益事業部長)は「高齢者と障害者の方々からの相談が多く、ひとり親の方からの相談もあります。この事業を通して障害者の皆さんも、住まいに関する深刻な課題を抱えています。

居住支援事業とは高齢者、障害者など住宅確保要配慮者の、民間賃貸住宅への入居の促進を図るために、住宅情報の提供や手続きの支援、相談・見守りなどの生活支援を実施する取り組みです。桑の実会は2021年、県内の社会福祉法人としては初めて「居住支援法人」として指定を受け、「桑の実居住支援相談室」を開設しました。

そんな中、法人の特別養護老人ホーム康寿園に隣接した土地の活用方法として「誰も

設の業務にアルバイトとして従事している方も数名人居しています。

一方、1階の地域交流スペースには地域のこどもたちが毎日のようにやってきて、遊んだり、受験勉強をしたりする姿が見られるようになります。さらに隣接する「桑の実こども園」の園児たちが、地域ボランティアとともに、野菜を販売するイベントを開催し、多くの地域住民が訪れるなど、多世代がつながる共生施設としての役割を果たしています。

また、入居者の高齢者、障害者の方たちから「仕事も紹介してほしい」という要望があつたため、法人が運営している介護施設の清掃などの仕事をお願いしているとのことで、外国人留学生で、介護施



社会福祉法人桑の実会 理事長の濱野賢一さん(写真右)と公益事業部長の米川智裕さん。「制度があってサービスがあるのではなく、ニーズを先取りしサービスを創る」という信念で、現在、42施設66事業を展開。